



# いずみ

令和6年2月29日発行

<学校教育目標>  
かしこい子  
やさしい子  
たくましい子

学校HP



(Tel) 3480-3881 (Fax) 5497-7358 (HP) <http://www.komae.ed.jp/ele/izumi/>

校長 鷲見 真太郎

## トライ&エラーのさらに先へ

校長 鷲見 真太郎

「よりよい自分、よりよい学級、よりよい学校を自分たちで」と、進めてきた本校の令和5年度も、最後のひと月となりました。先月の巻頭言でもお伝えした通り、教育活動の成果が子供たちの姿として表れていることが、たいへんうれしく、誇らしいです。

ノーチャームでも自分たちで教室に戻り気持ちを切り替えて授業に臨む、行事や日常の委員会活動での創意工夫と自主性、各学級の係活動の盛り上がり、学級会や授業における対話等々、具体的な場面を挙げると紹介しきれないほどの子供たちの活躍がありました。ただ、全ての活動において、うまく事が運び、成功体験につながったかという点、そうではありません。計画通りに進まなかったり、結果として実現しなかったり、という活動もいくつかあります。しかし、それは子供たちにとってマイナスな経験だとは思いません。

一昨年度6月号の巻頭言で、自己肯定感を高めるには、自己有用感が重要だと書かせていただきました。上記の活躍によってその自己有用感が高まった児童は多いのではないかと思います。ただ、この自己肯定感というものの、ただ高めればよいというものではなくて、高め方が重要だ、とも言われています。そこにはまず、失敗や困難な状況を乗り越えて得られた達成感や成就感による成功体験が必要で、それが人に認められることで高まった自己肯定感の本物の自信となって子供たちの力となっていくということです。

今年度当初の保護者会で、「トライ&エラー」を大事にする、というお話をさせていただきましたが、上記のことから、より「エラー」の部分をお大事にする必要があると感じています。「エラー」をただの間違いや失敗と考えず、つまずきや乗り越えるべき壁・ハードルと捉え、子供たちがそれを乗り越えられるよう、支援していきます。そして、達成できた時に大いに認め・褒めることをしていきます。

「エラーから始まるトライ&チャレンジ」という気持ちで、来年度も学校全体で子供たちを支えていきます。

### 3月の生活目標

#### 学校をきれいにしよう

- 自分の物や教室の物を整理整頓する。
- 計画的に学習用具を持ち帰る。

### 3月の安全指導

#### 3.11を忘れない

- 1月にも石川県で地震がありました。いつ、どこで自然災害が起こるかわかりません。自分の身を守るためにも行動確認をしていきたいと思えます。

※3月の避難訓練は予告なしで行うため、行事予定に記載しません。ご承知おきください。

## 6年生を送る会

岩崎 美和

3月6日(水)に、6年生を送る会を計画しています。今年度は、4年ぶりに全校児童が体育館に集まり、オンラインではない会になります。

1年生から5年生は、6年生に今までの感謝を伝えるために、限られた時間の中で一生懸命練習に取り組んでいます。どんなことを一緒にやったら楽しんでくれるかな、これを見てくれたら喜んでくれそうだな、と6年生にとって最高の思い出になるように各学年が工夫を凝らしています。

クイズ大会やダンス、合唱や感謝の言葉など、気持ちの込められた在校生たちのプレゼントで、6年生の卒業をみんなで祝い、送り出していきます。



## 卒業に向けて

黒田 和城

学習中も休み時間も元気いっぱいに過ごしています。何事にも真剣に取り組む児童が多く、意欲が高い子供たちです。6年生は様々な学習や行事を乗り越えてきました。新型コロナウイルス感染症に対する対策の日々が明け、新しい学校生活や行事の基盤を作ってくれました。そして、この1年間の様々な行事や活動で最高の6年生の姿を見せられるように頑張ってきました。子供たちは、和泉運動会や学習発表会で、自分たちの力を最大限発揮できたことを大変喜んでいました。

そんな6年生も、間もなく中学生になります。中学校に向かう準備や、小学校での思い出をさらに増やしていくために、悔いのないように活動していきます。残り数日の小学校生活の中で、今よりも積極的に活動し、満足して小学校生活を締めくくることが期待しています。

## 校内研究について

研究主任 足立 朋美

和泉小学校では「問いをもって学び続ける児童の育成」を研究主題とし、社会科・生活科を中心に学び手を主体とした授業を追求しています。学び手主体の授業とは、子供たちの「どうなっているのだろう」「なぜだろう」「調べてみたい」「やってみたい」等の問いを大切にしたり、子供たちが主体的に取り組める授業だと考えます。

今年度は4回の研究授業を通して、以下の3点が授業を進める上で重要であると明らかになってきました。

- (1) 子供たちがどのような問いをもてるとよいか具体的な言葉で想定し、資料を用意する。
- (2) 子供たちがもった問いをもとに学習問題や課題を設定する。
- (3) 整理した問いをもとに子供たちと相談しながら学習計画を立てて、計画を随時見直す。

この3点を意識することで、教えられたことをそのままノートに書くのではなく、子供たちが自ら問いをもち、すすんで学習に取り組む姿が見られるようになりました。

来年度は社会科・生活科に限らず様々な教科で、子供たちがもった問いをどうしたら解決できるか、学習方法も子供たちとともに選択できる授業を展開できるよう、研究を進めます。

今年度も、和泉小学校の学習指導にご理解・ご協力いただきありがとうございます。





